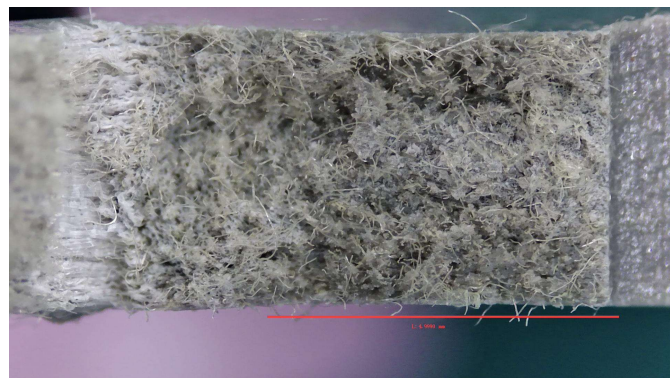


容器包装リサイクルによる廃プラスチック再生原料（容リ材）と 繊維端材を利用した強化プラスチックチック材料

株式会社カズマ



産廃処理されている繊維端材の物性を有効活用して、
廃プラスチックの機能強化材として再生利用するための
新たな材料リサイクル技術を開発する。

企業名	株式会社カズマ
業務内容	カーテンを中心としたホームファッション商品の規格・製造・販売
所在地	福井市八重巻町105
担当者	浅井 裕二
問合せ先	TEL 0776-56-4006 MAIL y-asai@kkkazuma.co.jp



企業HP

1.事業実施の経緯

カーテンの縫製工程で発生する繊維端材は、原料としての再利用が困難のため、固形燃料化し熱回収されていますが、欧州では熱回収はリサイクルと分類されていません。そして日本では、プラスチックの資源化促進と循環経済の実現が課題となっており、繊維端材の再利用技術開発が急務となっています。従来の廃プラスチックリサイクルでは物性低下や原料化時の高電力消費が課題のため、専門家や事業者と連携し、繊維端材の特性を活かして廃プラスチックの物性向上と省エネを両立する新たな材料リサイクル技術の開発を進めました。

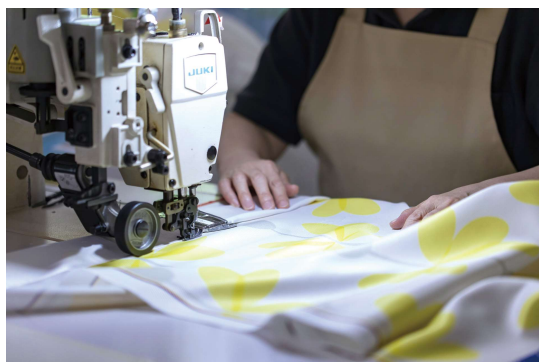


図 繊維端材：カーテン素材

2.事業内容

容器包装リサイクル材に繊維端材を混合することで、物性向上と品質安定化を図り、最適な配合条件の検討や再現性確認試験を通じて、事業化に有用な配合比率を確定し、実機での試作・評価を行いました。

物流用パレットへの適用を視野に入れた将来的な事業化も検討しました。

3.事業の成果

令和7年6月30日、本事業で研究開発した製造方法を新規特許として、出願しました。

4.製品・技術のPR

容器包装リサイクルによる廃プラスチック再生原料（以下、容リ材という）に繊維端材の物理的形狀を保ちつつ混練・成形することで、容リ材の引張強さ約1.1倍、衝撃強さ約2.9倍、クリープ特性の向上（ひずみ40%低下）と品質安定化を達成しました。

今後は製品化に向けて、実機での試作・評価を進めていきます。



図 会社外観

開発者の声

浅井 裕二

カーテンを縫製する際にどうしても出てしまう廃棄生地の新しい活用方法の可能性を見いだせたと思います。実用化に向けてまだ試作・試験は必要ですが、引き続き製品化に向けて開発を進めていきたいと思っています。

経営者の声

専務取締役
浅田 俊幸

産学官金の連携で福井発の高付加価値商品を生み出せるよう、これから用途開発も進めていきます。

